

2009年11月18日（水）

エイズ予防啓発イベントあいさつ

酒井國男会長

12月1日は「世界エイズデー」です。これに因み、シンポジウムを開催することにしました。

日本で、最初にエイズ患者が報告されたのが、今から24年前の昭和60年のことでした。その当時は、患者が見つかるたびに新聞や週刊誌、テレビなどでセンセーショナルに報道され、死に至る恐ろしい病気であるという風潮が広まりました。

その後、有効な治療方法も開発されて、報道も下火になり、多くの人達は「自分には関係のない病気である」と思うようになったのではないのでしょうか。しかし、その実態は違います。

平成20年末現在、日本で報告されておりますHIV感染者は10,552件、エイズ患者が4,899件、合わせて、15,451件が報告されております。また、平成20年の新規報告数は、HIV感染者が1,126件、エイズ患者431件で、計1,557件と、HIV感染者、エイズ患者とも、増加の一途が続いております。

一方、大阪府におきましては、感染者と患者を合わせて、平成18年が152件、平成19年が188件、平成20年が238件と、新規の報告者が年々大幅に増加しております。

特に、最近では、異性間の性的接触による患者・感染者が増大しており、20歳代から30歳代が全体の7割を占めている現状に、私どもは大きな危惧を抱いています。

患者・感染者をこれ以上、増やさない、感染拡大防止のためには、皆さんが身近な問題として捉え、正しい知識の普及と啓発が何よりも重要となります。

また、感染に気づかず、治療を受けずに、放置しておりますと、いずれはエイズを発症し、死に至ることも覚悟しなければなりません。感染の心配があれば、早く検査を受けること、感染がわかったときには、きちんと治療を受けることが重要となります。

そのため、大阪府におきましては、検査・相談体制をさらに充実させる取り組みを始めております。大阪の現状をみんなで考えるとともに、正しい知識を身につけていただきたいと願います。

HIV、エイズの問題を、自分に身近なものとして捉えるとともに、患者・感染者やその周辺の人々に思いやりの気持ちを持っていただき、一緒に生きていきたいと考えております。